

首長会議

司会

まもなく首長会議でございますので、会場のみなさま、お席にお戻りくださいませ。

お待たせ申しあげました。ただいまから、首長会議を始めさせていただきます。

首長会議では、昨日のパネルディスカッションの報告内容ですとか、ただいまの山北栄二郎様の講演の内容をふまえて、サミットの参加自治体の長のみなさまに、世界遺産について意見を交わしていただき、最後に、後世につながる取組みとして、サミット宣言をしていただく予定です。

まずはじめに、一般社団法人世界文化遺産地域連携会議代表理事で京都市長の門川大作様からメッセージを頂戴しておりますので、ご覧いただきます。

京都市長 門川 大作(ビデオ出演)



世界遺産サミットin斑鳩にお集まりのみなさん、こんにちは。

斑鳩町の中西町長、また、法隆寺のみなさん、ご尽力の全てのみなさんに感謝申しあげます。私は世界文化遺産地域連携会議の代表理事を務めます、京都市長の門川大作です。中西町長には、副代表理事として大きな大きな役割を果たしていただいていることにも感謝申しあげます。

さて、世界文化遺産地域連携会議が2011年に結成されました。地域の、日本の、人類の宝である世界遺産をしっかりと保存・継承する。さらに、活かしていく。そんなことを目的に、活動の柱に、第一に、世界遺産に関する国等への提案・要望。第二に、さまざまな共同事業の推進。そして第三に、世界遺産地域間の交流促進。これを目的にしております。

サミットは、活動の核となる重要な事業でございます。

サミットは10回目。我が国で最初に世界遺産に登録

された法隆寺での開催、非常にうれしく心強いです。サミット発案者の鶴保先生、高市先生をはじめとする国会議員や地方議員の先生方に感謝申しあげます。また、法隆寺は素晴らしい会場、本当は私も伺いたいんですけど、残念でございます。みなさんに御礼申しあげます。

我が国に25ある世界遺産は貴重な財産であり、永続的な保存には、各地域が知恵を絞って、英知を集めて対応し、国等へも強く協力を呼び求める必要があります。国の保存への新たな施策も重要であると、我々は考えております。保存や活動のその前提には、世界遺産への地域住民の熱い思い、世界遺産の地域が協力し合う姿勢が何も大事であります。

京都市としても、みなさんとより一層、協力して取組みをすすめます。

さらに、京都に文化庁が、機能を強化して全面的にこの3月に移転してきました。その文化庁とも連携を深めながら、世界遺産の維持・継承とともにしっかりと取り組んでまいりたいと考えております。

10回目の節目の大会、サミットにふさわしい有意義な議論がなされることと祈念いたしております。どうぞよろしくお願いいたします。

ありがとうございます。

司会

京都市長のメッセージでございました。ありがとうございました。

それでは続きまして、本日、首長会議にご参加いただくみなさまをご紹介します。

首長のみなさまは北の地域から順番に、各地のご紹介に合わせて壇上にお上がりくださいませ。会場のみなさまは、都度、拍手でお迎えてくださいませ。

まずは、東北地方でございます。

岩手県平泉町です。奥州藤原氏の遺構が多く残されていることに加え、敵味方なく死者の魂を浄土に導こうとした造営意図が、ユネスコ憲章の精神に通じることなどから、2011年に「平泉一仏国土（浄土）を現す建築・庭園及び考古学的遺跡群」として世界遺産登録されました。

平泉町長 青木幸保様です。

(拍手)

関東地方からは、来年、世界遺産登録25周年を迎える「日光の社寺」から、日光市長 粉川昭一様です。

世界遺産「日光の社寺」は、日光山内にある日光東照宮、日光山輪王寺、日光二荒山神社の建築物群103棟と、それを取り巻く遺跡から構成されています。

どうぞ。

(拍手)

続いて中部地方です。

今年、世界遺産登録10周年を迎えられた「富士山」です。富士山は、古来から信仰の対象として崇拜されてきました。平安時代には、その噴火を鎮めるために浅間神社が建てられ、修験道の道場となりました。江戸時代には富士講が組織され、北斎ですとか広重の浮世絵など、多くの芸術家の作品に影響を与えてまいりました。

構成資産のおよそ半数をお持ちの静岡県富士宮市から、富士宮市長 須藤秀忠様です。

(拍手)

次に、近畿地方に移ります。

まず、世界遺産登録25周年を迎えられた奈良市から、奈良市長 仲川元庸様の代理で、奈良市教育委員会教育長 北谷雅人様です。

(拍手)

世界遺産「古都奈良の文化財」は、東大寺、興福寺、春日大社、春日大社原始林、元興寺、薬師寺、唐招提寺、平城宮跡の8つの資産から構成されています。

そして、今回の世界遺産サミットの主催者でございます。「法隆寺地域の仏教建造物」から、斑鳩町長 中西和夫でございます。

(拍手)

「紀伊山地の霊場と参詣道」は、「修験道」・「神道」・「仏教」の聖地が共存し、それらが古道によって結ばれ、しかも現在に生きている場所として、来年世界遺産登録20周年を迎えます。

吉野町長 中井章太様です。

(拍手)

同じく「紀伊山地の霊場と参詣道」から、奈良県天

川村村長 車谷重高様です。

(拍手)

同じく、「紀伊山地の霊場と参詣道」から、和歌山県高野町長の平野嘉也様です。

(拍手)

そして、法隆寺と同じく、平成5年に我が国第1号の世界遺産登録となりました「姫路城」から、兵庫県姫路市長 清元秀泰様です。

(拍手)

最後に、これからの世界遺産登録を目指しておられるということで、今回特別参加をいただきます。

奈良県明日香村村長 森川裕一様です。

(拍手)

ではここからの進行は、一般社団法人世界文化遺産地域連携会議お世話役の井戸智樹様にお願いいたします。

井戸様お願いいたします。

(拍手)

一般社団法人世界文化遺産地域連携会議 お世話役 井戸 智樹



最後の佳境を迎えております。各市町村長さんによる会議、司会をさせていただきます、世界文化遺産地域連携会議のお世話役をしています、井戸と申します。よろしくお願いいたします。

この二日間、昨日の見学会、また分科会、そして今日は古谷館長のお話、JTB山北社長様のお話、そして

2つの分科会の報告などを通して、いろいろな議論がされてきました。いろいろなキーワードが出てきましたけれども、これからはそれを何とかまとめるということで、1時間でございます。10名市町村長さんいらっしゃいまして1時間でございますので、あんまり時間がないわけなんですけれども、何とか乗り切りたいと思っております。

10回目のサミットということで、京都市長、会議の代表理事でもありますけども、ご挨拶の映像がありました。

1回目は京都で開かれました。そして、2回目は紀伊山地で開かれました。今日は吉野、そして天川、そして高野の市町村さんが見えてございます。3回目は岩手県平泉、お越しでございますが、開かれました。大体この3回目までぐらいは、やっぱり保全が大事だねとか活用が大事だねとか、住民参加をしなきゃいけないねとかというような一般的なお話で、みんなで頑張りましょうというのが3年間でした。

4回目、石見銀山で開かれました。ここから分科会が併設されて、住民参加の問題とか、あるいは見えない遺産をどうやって見えるようにしていくんだとか、あるいは地域を、近接の遺産間でもっと連携していけないかとかというようなお話がありまして、大体4回目の石見銀山の議論を経て5年間、西日本の世界遺産連携というのができて、その精神が実は6回目の日光に引き継がれて、東日本でも連携していこうとか、町衆の力をもっと活かしていこうとかいうふうになりました。

それと5回目でございますが、姫路で開かれまして、ここではソフト・ハード、ソフト面だけじゃなくて、都市計画なども含めた、ハード面も含めたまちづくりをしていきたいというようなお話がありまして、その精神がリモートになっちゃいまして、コロナの影響で富士、富士宮の開催にでも活かされたという形でございます。

それとあわせて7回目、これは、実はコロナとあわせて首里城の焼失ということがありまして、このときはどうやってその文化財をできるだけ保存していくのかという問題、そして防災の問題なども議論されまして、そのことが9回目の富岡、より積極的に文化財をどうやって保存していくんだというような議論につながってきたわけで、今回10回目ということでございます。

では、今日は10名の方お越しでございますので、特にそれぞれの得意分野を中心に、今まで出てきたキーワードなども活かしながら、ご発言を願っていきたく思います。

まず、開催地10回目の斑鳩町さんのほうには、文化財の防災の問題とかということ、あるいは景観保全の問題なんかを中心に、一言お願いできればと思います。

中西町長、お願いいたします。

奈良県斑鳩町長 中西 和夫



はじめに、みなさまにおかれましては、公私何かとお忙しい中、この世界遺産サミットin斑鳩の首長会議にご参加いただきましたこと、改めてお礼を申し上げたいというふうに思います。

世界遺産の継承について、斑鳩町のほうから、防災についてのお話をということでございます。

斑鳩町は、豊かな歴史文化と自然環境が一体となったまちでございます。特にこの秋の時期におきましては、原風景を感じさせる伝統的な秋祭りや、あたり一面に咲く色鮮やかなコスモスと歴史的建造物とのコントラストなど、斑鳩町の風情を楽しみして、多くの方が観光に訪れているところでございます。

みなさまご存じのとおり、「法隆寺地域の仏教建造物」が姫路城とともに世界遺産に登録されて、今年で30周年を迎えます。これら文化遺産が、1400年の悠久の時を越えて守り受け継いでこられたことは、地域のみなさま方の郷土愛、また、聖徳太子の「和の心」を敬い、受け継いできた努力の結果で、また、かけがえのない財産でございます。

はじめに、文化財の防災の面からということでございます。

我が国においても、最も重要な文化財の一つでございます法隆寺は、奈良の東大寺とともに、国内の文化財の防火施設としては一番早い時期に整備をされております。ここの法隆寺地域の中で、大正12年から工事が着工されて、昭和3年に竣工しているという防災の事業でございます。これは法隆寺の北西部に位置しますところで池を築造いたしまして、そこから導水管を引いて、境内の中で約90か所の消火栓を設置するという内容の事業でございます。この当時、大正の事

業でございます。本当に機械等のない中での大変な事業であったというふうに思いますけども、この設備ができることによって、かなり防火等に対する施設は整ったのではないかと思います。特に、この池自体は法隆寺の境内との高低差といたしますのが、大体98メートルございます。そのなかで、かなり水圧等もございますので、五重塔の高さ、これがあっても十分に塔まで水が届くというような形で計画されたところでございます。また、容量といたしましても9,300トン貯まっておりますので、当時はやはり寺周辺でも、その上水道等の整備はできておりません。そのようななかで、お寺にとっては本当に大事な重要な事業であったのではないかというふうに思っているところでございます。

このような形でこの整備もできたわけでございますけれども、残念ながら昭和24年1月26日に法隆寺金堂から出火をいたしました。貴重な壁画が焼損したということでございます。これを契機として、「文化財保護法」が成立をいたしまして、この1月26日、これを「文化財防火デー」ということで制定されて、国のほうでも、一斉にこの啓発活動に取り組んでおられたというようなところでございます。

また、この1月26日には、法隆寺の自警団の方、また斑鳩町の消防団、また奈良県の西和広域消防、西和消防署が一体となって、防火の訓練に取り組んでいるところでございます。

また、この法隆寺といたしますと、やはり一番古い、最古の木造建築ということでございます。その周辺等におきましても、いろいろな民家が建っております。特に、法隆寺周辺といたしますと、風致地区の関係で建物自体もやはり鉄筋の建物とか、陸屋根の建物とか、そういうものではございませんで、ほとんどが木造の建物でございます。その周辺の方、家からでももし出火等をすれば、やはり大変なことになりますので、そういうところにおきましても平成30年に、敬老の日でございますけども、このときに消防の関係の方たちによりまして、高齢者の方のお家を訪問して、防火用の警報器の設置とか、そういうのをお願いに回って取組みをしているということでございまして、地域全体がやはりそういう形でお寺を守っていこうという意識を持っておられる、そのような地域ではないかなというふうに思っているところでございます。

また、景観の関係等についても、この法隆寺地域につきましても、歴史や観光、また、まちづくりにとっても非常に重要な拠点でございます。法隆寺をはじめとし

た歴史的・文化的資源、伝統ある集落やその町並みが一体となった固有の環境や景観につきましても、この地域、「古都における歴史的風土の保存に関する特別措置法(古都保存法)」というのがございます。またそれと、風致地区条例、景観条例、屋外広告物条例といったいろんな規制がかかっております。かなり法隆寺周辺にとっては大きな厳しい規制がかかっているわけでございますけれども、これにつきましても、やはりこの風致地区条例の中でも、普通、市街地ですと、建ぺい率が大体60%から80%というところでございますけども、風致地区におきましても建ぺい率40%、また高さ制限につきましても10メートルということで、2階建て以上の建物は建てられない。また、そこに屋根はもう勾配屋根で、瓦葺きというような形になっております。法隆寺のお寺にマッチしたような形の建物を、周辺でも建てていこうというような形になっているのではないかというふうに思います。特に、地域の方におきますと、やはり屋根に瓦を乗せるというのはかなり重量物でございます。構造的にもかなり頑丈な構造でないとならなければいけない。特に、いろいろな大手メーカーが、いろいろなハウスを建てております。これにつきましても、やはり軽量化という形でやっておりますので、そのような建物を建てようと思っても、やはり屋根に瓦を乗せなければいけないということで、周辺の方が民家等を建てられる場合、かなり大きな負担がかかっているなかではございます。それでもやはり、お寺の環境にマッチした建物を建てていこうというのが、この地域のみなさま方の考え方でございますので、それで、周辺を見ていただければ分かりますように、日本瓦で屋根を葺いております。色瓦も使っておりません。そのような形で、この地域みなさんが一体となってこの法隆寺を守っていこうということで行っておりますので、地域の方にとってはちょっと厳しいところもあるかと思っておりますけども、やはり今まで守ってきたこの法隆寺さん、まだこれ以上にやっぱり守っていこうという認識というのはかなり高いのではないかなというふうに思っているところでございます。

一般社団法人世界文化遺産地域連携会議 お世話役 井戸 智樹

ありがとうございます。

世界文化遺産地域連携会議というのができて13年目になるんですけども、大体3つの申合せを緩やかに行っております。

1つは、できるだけそれぞれの工夫されてることを学

んでいきたいと思います。

それと2つ目は、一緒にできることは複数の世界遺産でやっていきたいと思います。

そして3つ目は、できるだけ記念の年を大事にしましょうということ。

登録まではみなさん一生懸命やるんですけども、そこから先、維持していくためには、やはり世代交代もしていきますから、5周年、10周年というふうに、できるだけこの年を大事にしながら再結集していきたいと思います、3つ申合せをしております。

姫路市さん、次お願いしたいと思うんですが、姫路も30周年ということ。大変いろんな事業をやってらっしゃると思いますので、まずそれからご紹介いただけますでしょうか。

兵庫県姫路市長 清元 秀泰



法隆寺さんたちと一緒に12月11日に登録していただいて、今年で30年ということで、まず、姫路市では30周年の周年イベントとして、付加価値の高い連携イベントを行っております。

まず、5月の連休から1か月間、平成中村座の芝居小屋を三の丸広場に建てまして、借景を姫路城にという形で、姫路城を舞台にした歌舞伎、中村勘九郎・七之助率いる平成中村座、全国からたくさんの方が見ていただきました。

それから、先月は「お城EXPO2023in姫路」ということをさせていただいて、全国の城郭をお持ちの都市、お城の出店をしていただくと。最近、刀剣のブームとかもありまして、非常に特別な御城印を出したりということで、ちょうど阪神がリーグ優勝した翌週ぐらいだったんですけど、なんか夜中からEXPOの列ができてましてですね、警備員が「阪神の優勝セールちやいますよ」と言ったぐらい、夜中中並んでおられたということもあります。

今年の11月10日にお城まつりがあるんですけども、その後、お城まつりでは大名行列、これも文化庁のご

支援で作りしました「リビングヒストリー」といまして、当時の大名の軸、絵を全く同じような作り方で再現して、所作、いわゆるその「下に下に」というような所作も実演するというパレードもやっています。180人ぐらいの行列なんですけども、おとしぐらいから始めたんですけど、あまりにゆっくり歩くもんですから、終わらないぐらいなんです。実際、参勤交代というのは、都市と都市の間を物すごい速度で走ってるんですけど、威風堂々としてくるために水前寺清子かいていうぐらいですね、3歩進んで2歩下がるみたいな、そんな感じの行列をやっています。

そんなこんなで、冬は非常に観光資源もなかったんですけども、11月22日から100日間、姫路城はLEDで今照明してるんですけども、LEDの場合、光の3原則で力を変えると、赤になったり、緑になったり、ブルーになったりすることができるので、8時と9時、夜に「彩雲のショー」というのを去年からしてるんですけども、姫路駅からお城までの直線、姫路駅を出ますと800メートル先にお城が見えるんですけど、その大手前通りを22万個のフルカラーLEDで点灯いたしまして、姫路城のレインボーカラーの雲が町城下に全部に流れるというような、夜のいわゆるにぎわいをつくるイベントを行っています。まさに昼だけではなく、泊まっていたらもっと楽しい食文化も楽しんでいただけるというようなことを、30周年記念事業としてやらせていただいております。

一般社団法人世界文化遺産地域連携会議 お世話役 井戸 智樹

清元市長、ありがとうございます。

私も姫路の出身でございますので、まちがどんどん変わっていったのは本当にうれしく思っているところです。

そういう都市づくりのことにつきまして、もうひと方、お話を聞きたいと思います。須藤さん、富士宮市さん。須藤さんのところは、残念ながらコロナでリモート開催になっちゃったんですけども、これまで景観保全含めていろいろなことを工夫をされてきたと思います。一言、ご紹介いただければと思います。

静岡県富士宮市長 須藤 秀忠

ご紹介いただきました、静岡県富士宮市 市長の須藤秀忠でございます。

ここ斑鳩の地を訪れ、世界遺産サミットに参加できます



ことを大変うれしく思います。本日は、記念すべき第10回世界遺産サミットの開催、誠におめでとうございます。

さて、富士山の世界遺産登録から10周年というタイミングは、万葉の歌人 高橋虫麻呂の歌に、「日の本の大和の国の鎮ともいます神かも 宝とも生れる山かも 駿河なる不尽の高嶺は見れど飽かぬかも」や、北原白秋の弟子である野村清氏の歌、「日本の哲学であり神である 大富士の山 をろがむわれは」と詠われているように、富士山の偉大さをさらに広く伝える大きなチャンスですので、大変多くのイベントなどを組み立ててまいりました。

6月には、「富士山世界遺産登録10周年記念祭」を富士山本宮浅間大社で実施し、商店街や商工会議所青年部との連携によりまして、大変多くの人出となり、盛大にお祝いをしたところであります。

今後のイベントとしては、この世界遺産サミットの向こうを張るわけではありませんが、11月13日に県内版の世界遺産サミットを実施いたします。

また、10周年の締めくくりとして、「富士山の日」である2月23日に、著名なアーティストを呼び、世界遺産のコンサートを開催いたします。

さらに、コロナが収束し、国内外の交流も再開していることから、アメリカとかスペイン、ニュージーランド、韓国、台湾、ベトナムとの交流の場において、10周年の横断幕や啓発品を活用して、世界に向けた世界遺産「富士山」のPRを積極的に行っております。

続きまして、景観条例についてお答えいたします。富士山が世界遺産に登録された平成25年頃、全国的に太陽光発電パネルの乱立による、景観阻害が社会問題として注視されてまいりました。富士山の麓である富士宮市では、特に大規模な太陽光発電については、要綱や条例を整備することにいち早く取り組み、抑制区域の設定や、一定規模以上の開発に市長の同意を要する条件を設定し、市内の景観保全の統率を図ることが

できました。そのほか、富士山景観条例、風致地区条例、屋外広告物条例により、富士山世界遺産センターや浅間大社から望む富士山眺望を阻害しないよう、建物の高さ制限も設けております。太陽光パネル等の例から分かるように、景観はまちの印象を大きく左右するものです。特に、富士山の景観は、まち中や自然環境との調和を図りながら一体的に形成されるものでありますので、市のまちづくりのコンセプトを明確にし、全体的な構想の中で統一感のある景観形成を目指していくことを心がけております。

なお、続きまして、まちづくりについてお答えいたします。富士宮市は、全国に約1,300ある浅間神社の総本社である富士山本宮浅間大社や、国の名勝天然記念物である白糸の滝など、世界文化遺産「富士山」の構成資産5か所を保有し、まさに霊峰富士の恵みに抱かれたまちでございます。

当市では約10年間、世界遺産にふさわしい品格のあるまちづくりを積極的にすすめてきました。まちづくりを語るうえで、まずは富士山世界遺産センターを当市に誘致し、まちづくりの核を生み出したことは、私の描いたまちづくり構想の中でも非常に大きな成果であったと思います。

富士山世界遺産センターと浅間大社を結ぶ動線を参道軸と位置づけて、人の流れを創出するとともに、特別天然記念物「湧玉池」を水源とする神田川をまちの顔とするために、「清流の美」・「空間の美」・「庭園の美」をコンセプトに、浅間大社内にあるそうした神田川を愛でながら散策する歩行空間を整備いたしました。

また、その付近で大規模観光駐車場も整備し、この10年間で富士宮市は、目に見える大きな変貌を遂げたことを実感しております。「近き者説び（よろこび）、遠き者来る」という孔子のこの言葉が、目指すまちづくりの理念の根幹であります。

これからも、富士宮市が大切にしてきた文化や資源を敬い、富士宮市民に愛されるまちづくりを目指すことで、世界中から富士宮市来られるお客様にとっても、魅力的なまちにしていきたいと思っております。

少し長くなりましたが、以上であります。

一般社団法人世界文化遺産地域連携会議 お世話役 井戸 智樹

ありがとうございます。

後ほどまた、紀伊山地のみなさんにもご発言いただきたいと思うんですが、富士山も2つの県をまたがって

まして、大変広域な遺産です。ただ、構成資産のうち半分以上は多分、須藤さんの富士宮市におありになるのではないかと思います。

では、もう一つ、実は記念の年をお迎えのところがあります。奈良市さんです。

実はタイのほうでは、各ところの各遺産の状況と、「一番催事」という催しですね。これを世界中に発信しようということで、今、予算たった50万円で、各ところの実験的な事業をしています。そのうちのトップは、実は奈良の夏の夜、燈花会とかの映像をフランスで流しましたところ34万視聴、これが今現時点でのトップであります。ご参考までに。

では北谷さん、一言お願いします。

奈良県奈良市教育委員会 教育長 北谷 雅人



今日は市長が公務でございますので、私教育長、北谷がご報告をさせていただきます。よろしく願いをいたします。

今、ご紹介にもありましたように、本年度は、奈良市が誇る「古都奈良の文化財」が、世界遺産登録されてから記念すべき25周年を迎えております。ご存じのように、8つの資産群で形成されているわけでございます。25周年を記念いたしまして、いろんな、いわゆる世界遺産の価値を再認識をするとともに、あわせてその価値を国内外に広く知っていただくというふうなことで、さまざまな事業を展開しております。その主なものをご紹介しておきたいというふうに思っています。

主な事業の一つといたしましては、史上初めてということで、紙上じゃなくて歴史上、初めて世界遺産の構成資産である東大寺様、興福寺様、春日大社様、元興寺様、薬師寺様、唐招提寺様のご協力を得まして、この1つの券で全てが回る事ができる、「六社寺共通拝観券」を、本当にご協力のもと、作らせていただいたと、こういうものでございます。これを2万冊限定で今、作らせていただいているわけなんですけども、ご購入いただ

いて、回っていただいているということでございます。

さらに、奈良市内に在住の小学生・中学生に向けても、世界遺産が自分の身近なところに存在しているということを知っていただくために、興味を持つきっかけにするということで、今ご紹介いただいた六社寺を無料で拝観することができる、「世界遺産巡りバス」の券を発行いたしまして、これは無料で奈良市の、もちろん公立の小・中学生、奈良市内に在住の全ての小・中学生にお配りをしているということでございます。本市の小学生につきましては、5年生のときに、世界遺産学習の一環として、教育委員会として、全ての資産を回れるようにバスを用意して世界遺産学習をするわけですけども、今回はそれに加えて、何回でも自分でまた勉強ができる、また自分の目で本物を確かめるという機会をつくっていただきました。

そのほかには、ロゴを作ったり、シンポジウムをしたりということで、さまざまな取組みを今、させていただいております。また新たな「南都八景」というふうなもので、「新・南都八景」を市民のみなさまからご投票いただいたりをして、昔の「南都八景」と現在の「南都八景」を、またご紹介するというふうな取組みもしております。

それから、また各種企業様からもご協力をいただきながら、奈良のお酒ですね、酒蔵のいろんな銘柄のお酒を、冬に向けてラベルを工夫をしていただき、ご紹介をしているというところでございます。

また、深まる秋の夜を満喫をしていただくということでございますので、「秋夜の奈良旅2023」が、11月の毎週金曜日、土曜日の日にライトアップして行われるということでございますので、また今までと一つ違うトワイライトな夜景の鑑賞、バスも運行させていただけるということでもあります。

いろんな取組み、これ紹介すればたくさんございますが、奈良市については、本当に「1300年の歴史を」ということでございましたので、今年度この9月以降に、新しいキャッチコピーを子どもたちとともに考えまして、本当に古いということだけだけではなくて、「Old History, New Discovery」というキャッチコピーをつくりまして、全ての奈良市の行事、それから名刺、全てのところにこういう新しいことで、「温故知新」ですかね、新しいことを残しながらも、今後、前に一步を進む取組みをしていくということでございます。

それでは、私のほうはこれぐらいにしておきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

一般社団法人世界文化遺産地域連携会議 お世話役 井戸 智樹

ありがとうございます。奈良市さんでした。

今日は、先ほどJTBの山北社長さんのほうからツーリズム、またインバウンドに対する基調講演がございました。さすがJTBさん、いろいろなヒントをいただいて、こういうこともみんなで取り組んでいきたいなというテーマも、新しく気づきがあったしだいでございます。

今日は実は、インバウンドの非常に先進的というか、先陣を切ってやってこられた2つの市町が来られております。高野町さんと日光市さんです。

まず、高野町さんの平野さん、このインバウンドの分野で、このコロナの時期も大変だったかと思うんですけども、そういうご苦労も含めて一言お願いできればと思います。

和歌山県高野町長 平野 嘉也



みなさんこんにちは。高野町です。いつもお世話になります。

司会の方がおっしゃるように、コロナになって、まちがもうゴーストタウンというような感じになりました。それまで海外の方、私が町長に就任してから、中東とかで火を噴くとか、あと中国で、「中国で」と言ったら怒られるか、病気になるとか、そういうことがあって、海外からのお客様が止まったとき、「日本の方は来てくれるでしょうけど、インバウンドは止まるよねと。だから、日本の方にしっかり来ていただけるような環境をつくらうね。」って言うておたらですね、緊急事態宣言が出て日本人も動かなくなったということで、2019年の緊急事態宣言が出たそのときのゴールデンウィークの期間、多分、九日か十日間あったと思うんですけど、いつも2万人泊まるお客さんがいたんですが、僅か11人でした。次の年が57人、そして、その次の年がようやく6,000人ぐらいまで来て、今年度は大体1万8,000人か1万9,000人まで戻ってきたのかな、という

ようなところでございます。

高野山というところはいまだお大師様、空海様が生きてらっしゃるという前提で、まちが続いております。今年がちょうど1250年のお誕生法会がございました。普通ですね、「生誕祝い」というような言い方をするんですけど、高野山、真言宗のほうが「ご生誕」、「ご誕生」、誕生日ということでまだ生きてる。お大師様が56億7000万年後まで瞑想修行を続けられて、みなさまのお幸せを祈り続けられて、高野山の奥之院というところに弥勒菩薩さんが降りてきます。そのときに、みなさん仏さんですよ、仏さん。そのときに弥勒菩薩さんのお話を聞きに高野山にみなさん来られるんです。みなさん多分ね。そのときにですね、弥勒菩薩さんのお話をいただきたい、ライブを聞くためのチケットというのが、今、絶賛発売中なんです。それはどうしたらいいか分かりませんか。高野山に行った方、いらっしゃいますか。たくさんいらっしゃいますかね。あまりいませんね。はい。高野山の奥のほうに奥之院というのがございまして、御廟（ごびょう）というのがございます。お大師さんがまだ住まわれるところなんですけど、そこに行って手を合わせてください。それがチケット購入のサインだそうです。そして「チャリン」としていただいたら、金剛峯寺さんも喜ぶかなというふうに思いますが、ちょっと余計な話をして申し訳ないです。

そういう山なんですけど、塔頭寺院（たっちゅうじいん）、ここの法隆寺を見ていただいたら、法隆寺の中を歩いて来られたら、塔頭寺院がたくさんありましたよね。その形が高野山なんです。高野山の中に金剛峯寺ですね、117の塔頭寺院がありますし、そして役場、そして警察、郵便局、学校、全部言うたら法隆寺さんのあの境内の中にあるというような、「門前町」じゃなくて「寺内町」でございます。

そういうようなまちなんですけど、インバウンドに関しては、おおかた戻ってきたのかなというように思う。また、ちょっとデータを取ると、コロナ前よりも多くの方が今お越しになっているのかなというふうに思います。

そういうような方々にどうPRしていくかというのが、いつも我々考えるんですが、もう限定的に、どこの国の人に来ていただきたいか、また、どういう層の方に来ていただきたいかをしっかり考えたうえで映像を作り、そして、どこの国にYouTubeを投下していくかというのを考えたなかでPRをしておるところでございます。

あとは、国際線の中でPVですか、そういうのを流し

て、海外から来てくれるゴールデンルートにいるお客様を、いかに我々の高野山のところに連れてくるかというのを、観光の面では一生懸命やっているところがございます。

そして、今、山中で、町全体で一生懸命そのPRをするというところに心がけているなかで、やはり毎朝、宿坊で朝の勤行とか護摩焚きとかあります。そういうところの生配信をYouTubeでしたり、そういうようなPR活動をしておるといふのと、やはりまちなかに来ていただ海外の方が自発的にSNSで流します。これが最大のPR効果があるのではないのかなというふうに思います。JTBさん、違ったらまたご指導いただきたいと思いません。

だから、より注意しなければならないです。いいものはそこそこ流してくれるんですが、もしか悪い点とか、気になる点とかがあれば、もう一気に拡散しますので、その辺りは我々、山に住む人間にとって、一番注意を払って、しっかりお迎えをしるといふような内容でございます。

このコロナの期間中にアフターコロナを目指して、観光庁さんの高付加価値化事業とか、いろいろな事業でまちなかの宿泊のお寺を付加価値をつけるような宿坊に、だいぶ改造されてきました。当然、スイートルームのような部屋も出てきております。したがって、値段は今どんどんどんどん上がって行ってます。でも、上がったら上がったところから全部予約が入っていくというような状況が、今の高野山の宿坊ではございます。そういうようなことで、どんどん上がっていくということから、逆に悩ましいんですが、日本人が泊まりにくい環境になってきたというようなところが、今後課題解決していかなければならないのかなというふうに思います。

それと、いろいろな、町としては課題があるんですが、多くの方、3,000人ぐらいが泊まれます。その高野山地区の住民も3,000人ぐらいです。大体、町の人口と宿泊者が同じ。そして、日帰りの方々ももっと入ってくるとですね、1日数万人規模のまちとなるというところまで、人口たかだか3,000人の町で、消防やら病院やら上下水やら、いろいろなことをカバーしていかなあかんというところに、これから負担もかかってくるかなと思いますし、また、昼食難民が今出てきておるのが事実でございます。アフターコロナに向けて多くの事業所が、カフェとかうどん屋さんとかいろいろなところをオープンしてくれてるというので、みなさん一生懸命、今頑張っている最中でありませう。

今後、2034年に、我々は2034年を目指してんですが、何があるかと言いますと、「お大師様の御入定の1200年」という、真言宗の方ですと一番大きな法要がございまして、町としてもそのための環境整備を、今しっかりやっていっているところと、あと今後、そうですね、高野山というスピリチュアルな環境を求めて多くの方が来ていただきますので、まちのみんなで協力していい環境、持続的な可能な環境、それこそ本質を忘れない、本質の価値を大事にするようなものもしっかり受け継いでいきたいと思います。

また、文化財行政としても非常に大変なまちでございます。「お山の正倉院」と呼ばれるような場所でございます。高野山は建物はそんなに古いものはないです。なぜかという、昔から火災、火災、火災で、山に水がありませんから、火災でもう大変な目に遭ってですね、なかなかそういう文化財的なものは少ないところではございますけど、多くの書物とかいろいろなものがございまして、しっかり文化財を次の世代にバトンタッチできるように、そして来年は20周年を迎えますので、どういふ20周年にするか、対外向けなPRは僕はせんでええと思いません。

なぜかという、やはり20周年をもって次の世代にしっかりバトンタッチができるような教育ですか、そういうものを町民全体でやっていきたいと思いますので、またみなさまのご指導をいただきたいと思いません。

長くてすみませんでした。

一般社団法人世界文化遺産地域連携会議 お世話役 井戸 智樹

ありがとうございます。

外国人の目で見れば、高野町はあれですもんね、世界有数のまち丸ごと仏教ですもんね。これは世界有数のもんだと思いますよね。ありがとうございます。

では次に、日光市の粉川市長さんお願いしたいんですが、私、ガイアの夜明けも拝見しまして、雄姿を拝見しました。

さっき平野さんのほうからも、高級化路線の話が出ました。ニューヨークではラーメン1杯5,000円するとかですね、そんな時代、円安がいいとは思いませんけども、時代でもありますし、今いち早く高級化路線に走って取り組んでいращやるかと思しますので、一言お願いいたします。

栃木県日光市長 粉川 昭一



日光市長の粉川でございます。

まず、インバウンドの動向を少しご紹介申し上げたいと思います。

コロナ禍の前でありますけれども、市内には世界遺産エリアとありまして、各地域で世界約21か国の方にお越しをいただいております。特に、今年ですけれど6月24日、25日と、奥日光を舞台にG7の男女共同参画女性活躍担当大臣会合が開催をされまして、一気にインバウンド誘致に向けての勢いがついたところであります。

体感的にも戻ってきてるのは分かるんですけれども、インバウンドの宿泊者数であります。2019年、コロナ前は約12万人、コロナ中の2022年が1万5,000人まで減ってしまいました。今年度はまだ集計中でありまして、日光市の観光協会の日光支部の所管します、観光案内所の外国人来訪者の方の件数を見ますと、2019年、2021年、2022年、2023年とあるんですが、全て今上回っております。特に2019年の7万513件の相談件数に対しまして、今年度途中ですけれども、5万5,890件というふうに、もう8割ぐらいは来ておりますので、年度までいっぱいになれば、コロナ前以上になるような手応えがあります。

そして、先ほどもちょっとお話いただきましたが、外国人の方が日光市にお越しになる場合は、大体電車なんですけれども、2つありまして、JR線を使ってくるといことと、もう一個は東武鉄道さんを使ってくるといこととあります。こちらのほうですが、残念ながら東京から2時間ぐらいで来られますので、日帰りの方が非常に多く、通常であれば大きなスーツケースを引きずってという方が多いはずなんですけれども、手ぶらのお客様が非常に多いのがちょっと課題であります。

東武鉄道さん、本年なんですけれども、新型特急「スーパーシアX」というものを運行を始めていただきまして、これが非常に好評で予約がなかなか取りづらい状況な

んですけれども、加えまして、そのG7の会場になりました奥日光に、「ザ・リッツ・カールトン日光」というラグジュアリーホテルに来ていただきまして、そのおかげで非常に次々と、今ラグジュアリーホテルの進出が続いているのが日光市であります。

欧米のお客さんが非常に多いんですけれども、欧米のお客様の動向といたしましては、非常に安いゲストハウスのようなところに泊まるのか、それとも一つが、そういったラグジュアリーホテルに泊まるという二極化しているところがありますので、できれば少しでも単価の高いところに泊まっていただけのような施策が必要なのと、東京に返さずに日光に泊まってもらうような取り組みが重要になってます。

先ほども、高付加価値の事業ということの採択の話がありましたけれども、日光市でも民間事業者の方が、「日光江戸村」という施設があるんですけれども、やっぱり「江戸」というものをキーワードにして、東照宮内で江戸を体験できるような事業を取り組んでいただいたり、昨日は法隆寺で素敵なおライトアップがあったんですけれども、11月3日からこの世界遺産エリアの山内を中心に、特に紅葉の一番いい季節が日光は来ておりますので、このライトアップ日光というのが始まります。夜のイベントというものは、夜を見ますと終電で帰れないことになってしまいますので、インバウンドの外国のお客様にも帰らずに日光に泊まっていただけのような、そういう仕掛けづくりもしております。

あわせまして、アクティビティーや体験型というものが非常に求められているところでありますので、こういった事業も次々と今繰り出しながら、外国のインバウンドのお客様にまずは日光に楽しんでいただきながら、滞在型を目指して今取り組みをすすめているところです。

以上であります。

一般社団法人世界文化遺産地域連携会議 お世話役 井戸 智樹

ありがとうございます。いろいろなキーワードいただきました。

日光はあれですよ、もともとは「修験道」に始まって、それから徳川家との関係ができて、それから外国人が居住するようになっていことと、今まで、ただまあそういうリゾート的な部分と歴史的な部分がちょっとばらけてて、なんか長期滞在する場所のようなイメージなかったんですが、随分変わってきたような感じですね。

ちょっとキーワードが出てきましたので、順番ちょっと

変えさせていただければと思うんですが。

今日は紀伊山地の方、あと2町村お越しいただきます。

紀伊山地の場合は、実は「仏教」と「神道」と「修験道」が、聖地が同じ場所にあって、道で結ばれてて、今も活動されてるとというのが一つのコンセプトなんですけども、どうしても施設含めてJR含めると、東海、西日本、それと近鉄、それと南海と走ってます。さっき東武のお話がありましたけども。ですから、南海電車は高野山ばかりやるし、近鉄は吉野ばかりやるし、そこの部分はいいんだけど、なかなかコンセプトが普及していかないという難しさが、実はあります。広域的な指定の場所は、そういうふうにもどこも苦慮されてると思うんですけども。

まず、天川村長さん、車谷さん、「修験道」ってね、みんなあんまり知らないと思うので、日光ももともと「修験道」ですけども、どんな感じのものなのか、吉野町長さんでもいいんですけども。

車谷さん、この間、村のホームページを見て、修験道体験とかいろいろされてて、ここまでされてるんだとびっくりしたようないい感じもありまして、ちょっとご質問させてもらいます。

奈良県天川村長 車谷 重高



ありがとうございます。天川村の車谷です。どうぞよろしくお願ひします。

今「修験道」の話がちょっと出ました。私はその1300年ほど前のことは詳しく知らないんですけどね。役行者（えんのぎょうじゃ）が開祖ということで、今日まで続いているわけなんです。山岳信仰ですので、我々、この世界遺産に登録されたときも、「紀伊山地の霊場と参詣道」ということなんです。

私らの村からいけば、山筋、尾根ですね。尾根筋が世界遺産登録といったところでございます。この道は二大霊場を結ぶ吉野から熊野までで大体、「奥駈道」というんですけど、これが120キロあるんですよ。その

道を修験者たちが修験と、修行をするわけなんです。これは大変な労苦を伴って、たまには命を落とす人もおられますし、並大抵で行けるようなところではございません。そういった山々の尾根筋を修行の場として、いまだにその信仰をされておるわけなんです。山本体が神体、山が神体、ご神体ということになっておるところでございます。

先ほど言われましたように、「山岳信仰」と「仏教」、「神道」はちょっとその前ですけども、それら3つが融合してですね、仏教と真言密教が今日まで続いてきとるんじゃないかなと、こう思っております。

この山道ですね、大変急峻な山々でございます。日本、近畿で最高峰の八経ヶ岳という1,915メートルでございます。また、弥山（みせん）という山もでございます。これも1,890メートル余りでございます。このように高い山々に囲まれたところを修行の場として、今日まで続いてきてるわけなんですけど、年々やはり精神文化といえますか、そういった修行される方が少ない。我々の大峰山寺にある、木造建築では最高の高いところにある大峰山寺というのがあるわけなんですけども、そこに行くだけでも2時間あるいは3時間ほど、この洞川（どろがわ）というところがあるんですけど、これは宿場で栄えたまちなんですけど、そこからやっぱり2、3時間かかる。大変これも険しい山を登っていくということで、そういった「修験の場」としての、それを観光客とも言えないですね、修験する方が年々減ってきている。

その代わり、この地元で、地元で周遊される観光客が、これがまた増えてきてるわけなんです。私どものキャッチフレーズで、「神秘的な村ほど、ほどよく遠い」というようなキャッチフレーズをしているところなんですけども、この斑鳩町から約1時間半余りで行けます。奈良県庁辺りぐらいからだったら、もう2時間ほどかかるわけなんですけども、結構遠いのか近いのか中途半端な位置関係であるわけなんですけども、そんな意味でその世界遺産があるということなんです。

これは吉野山を起点として、金峰山寺、隣におられる吉野町長、あるいは天川村を通過、そして西に行けば高野山なんです。私が考えているのは、この世界遺産を、言葉は悪いですけど利用させていただきながらですね、観光につなげようと。ですから、南和地域の観光部文化圏をつくっていかうやないかという相談をずっとしてるんですけど、なかなか、今申しましたように、道路整備が落ち着かないので横移動がしにくい。西から東に行けない、東から西に行きにくい。行けるわけな

んですけれども、危険というようなことをアピールされると、ちょっとやめておこうかというような感じになっていきます。

そしてまた、高野山、天川、吉野そして北に向かって明日香、奈良、こういった観光圏、観光広域圏を今後連携してやっていきたいなど、こういうことも今考えているところでございます。

そしてもう一点だけ、私ちょっとみなさんに聞いてほしいんですけど、役行者といえはこの「陀羅尼助（だらにすけ）」という胃腸薬があるわけなんです。知っておられる方は知っておられると思うんですけど、「陀羅尼助（だらにすけ）」、「陀羅尼経」とか「陀羅尼助」と書いて漢字で書くわけなんですけど、大変ちょっと難しい字なんですけども。これが年々、この木が減ってきてるわけなんです。もう国内でほんの少数しか採れない。オウバクという木なんですけども、この木の樹皮を煎じて胃腸薬にするんですけど、これがよく効くんですね。1300年も続くということは、やはり効いてるということなので、みなさんまた一回お試しになっていただきたいなと思います。

そして、そのキハダを作ろうやないかということになってくるわけなんですけども、たまたま30ヘクタールほどの広大な山、林地が開けて、その後で今までの状況であれば、スギヒを植えなさいよ、県の補助金があるから植えなさいよと、こうなっていくわけなんですけども、このスギヒを植えるとやはり50年、70年、あるいは100年という単位になってくるわけなんです。それにはあまりにも、今までのこの林業の不況な折ですね、経験上からしても、もうそういったことはしたくないと。地元の、地域にあった木を植えたいなということ、このオウバクとか広葉樹ですね、いろいろな広葉樹を植えたりすると。その木を植えるにしても、地元ではなかなか資金が足りないもんですから、これは大手、日本国内の企業さんからどんどんお金を投資していただける。これは売名行為でもなくてSDGsですね、二酸化炭素の排出を抑制しようじゃないかという取組みの中での取組みで企業が参画していただけると。

つまり言いたいのは、そういった世界遺産、あるいは世界遺産から観光につながる、これがまた森林につながると。循環するわけなんです。これは大変ありがたい地域に、我々は住んでおったというのが実感でございます。

そういったことも、今あるということでございます。

一般社団法人世界文化遺産地域連携会議 お世話役 井戸 智樹

ありがとうございました。さっきも洞川温泉の写真をわざと使わせていただきますけど、確かに「陀羅尼助」ありますね、これは素晴らしいお話でした。ありがとうございます。

では次、ちょっと流れるには吉野町の中井さん、20周年のアイデアとかも含めて一言お願いできればと思います。

奈良県吉野町長 中井 章太



吉野町長の中井でございます。よろしくお願いします。

先ほど天川村長から「修験道の聖地」ということで、最初のときにですね、桜がみなさん方がご存じだと思います。先ほどから話してますように、世界遺産20周年が来年度に控えています。そのようななかで、我々はどういった催しをしていこうか。過去でしたら大規模なイベントをして、そして華やかにしていくというのが一つの形だったと思います。ただ、本日のテーマもありましたキーワード、何個か出てます。やはり「つなぐ」ということと、そしてまた「交流」、そして「人材育成」。この3つをしっかりと柱にした20周年の事業をしていきたいなと思ってます。

それと同時に、一つは官民共創ですね。今までとは違った形で、民間の活力を活かしながら、この世界遺産20周年を迎えたいなというふうに思ってます。9月の後半に、吉野大峯の世界遺産登録20周年の協議会を設立させていただきました。そこにも吉野にゆかりのある近鉄さん、そしてまた南都さん、そしてまたいろいろな企業さんがそこに参画しながら、一緒になってつくりあげていこうと。やはり情報共有も、今デジタル時代の中でいろいろな共有ができます。できる限り、今まででしたら自治体ごとが中心になって実行委員会でやるんですけども、それぞれの企業さんもやってくところに乗っけていこうと。そういうふうな形でこの20周年を、次につなぐ世界遺産の事業にしていきたいなというふうに

思っています。

そのなかで、今年ですけれども、少し来年につながるような事業も一つさせていただいたというか、吉野の金峯山寺でありました。

10月1日に、奈良酒で世界遺産で乾杯という形で、奈良そのものは日本酒の清酒発祥の地です。そのなかでも、特に吉野は3つの蔵がありまして、吉野杉がすごく有名でございまして、吉野杉というのは原点は何かというと、「樽丸」・「木桶」でございまして。そういったところに結びつけながら、林業の歴史とか、そしてまた世界遺産と林業のつながり、桜と吉野杉のつながり、そういったところを掘り起こしていきたいなという思いもございまして。

もともと吉野の林業は、この世界遺産の登録、「紀伊山地の霊場と参詣道」を登録するときに、推薦文に天然林も人工林も大事にしていく、守られてきたというなかで、吉野林業は500年の歴史がございまして。当然、参詣道には広葉樹がたくさんあって、その道が守られています。そういったところに吉野林業の経済として支えてきた、そういったところもこの世界遺産を生み出した一つだということで、そういったところもこの20周年を機にいろいろと知っていただきたいなというふうに思いますし、先ほど天川村長からキハダの話もありました。時代の流れのなかで、当然従来のそういった産業というのは、林業の形というのから変化もしていかないといけない。そのようななかで、もう一度この世界遺産そのものの道を守る、そしてまた景観を守っていくために、こういった歴史があったか、それを当然民間のみならずの方の事業で展開していくと同時に、地域の方々にも、今、生涯学習とかリカレント教育とかあります。そういった形で大切なものを守っていくというのを、ぜひこの20周年の事業にしていきたいなというふうに思っています。

そして、観光につなげていく一面からしますと、我々吉野の、それぞれの自治体には観光協会とかいろいろあるんですけれども、ちょうど令和3年に「吉野ビクターズビューロー」というDMO法人、こちらのほうが設立されました。ほとんどそちらのほうに事業をシフトしていくことによって、民間との連携であったり、そしてまたスピード感が出てくると。そういったことに今力を入れています。

コロナのなかで、非常に観光地としては旅館とか閉鎖するところが増えてまいりました。そのようななかで、観光庁の、今日も観光庁の次長もお越しになっておりましたけれども、この観光庁の事業を活用しながら、地域

一体となった観光地の再生、そして観光サービスの付加価値化を目指そうと。今インバウンドとか高付加価値の展開をしていくというのも一つかなあということで、当然旅館のリノベーションであったり、外からの資本を投入していただいて旅館を再生するとか、そういったところも今地域と一体となって取り組もうという動きをしております。

そしてもう一つは、第2のふるさとづくりという形で、先ほど桜の話させていただきましたが、「桜からはじまる吉野の愛着人口増加プロジェクト」、これはやはり先ほどの歴史的なことをお伝えしながら、そしてまたモニターとして1回参加していただいて、吉野の企業研修であったり、教育プログラムの研修に落とし込めないかなということで、この11月ぐらいからモニター研修もやっていながら、そのプログラムをつくっていききたいなというふうに思っています。

こういったものをしていくためには、当然先ほどの交流であったり人材育成というのがございまして。ですからやはりもう一度、その地域人材の登用と活用をどうやっていくか、これが多分、その持続可能な地域づくりとか、まちづくりをしていくときに非常にプログラム育成のメニューづくりにも、一番重要なポイントになってこようかなというふうに思っていますので、そういったところに力を入れながら20周年に取り組んでまいりたいなというふうに思っております。

最後ですけれども、今ちょうど金峯山寺蔵王堂、10月27日からご開帳が始まっております。11月30日まで、まだございまして、ぜひこの吉野に訪れていただいて、また天川、高野、そういったところも行っていただければですね、よりまたこの吉野の魅力というところが見えてくるかなというふうに思いますので、ぜひまた足を運んでいただけたらと思います。

以上でございまして。

一般社団法人世界文化遺産地域連携会議 お世話役 井戸 智樹

ありがとうございます。

本当は2、3順回したかったんですけども、ごめんなさい、2人、実はまだご発言いただいてないところでございまして。

最後の最後は、相互の質問タイムは2、3件できれば設けたいと思いますので、ちょっと考えといていただいとというふうに思います。

昨日から各世界遺産、こちらに集まっております、

縄文遺跡、新しくメンバーになりまして、縄文遺跡の方曰く、「いや、うちのほうが法隆寺より古いけど、やっぱり形があるのはうらやましい。」というようなお話などもありました。

実は、この中では平泉さん、ちょっと後回しにしちゃって申し訳なかったんですけども、もうそのことをお悩みかと思えます。平泉といえば中尊寺と。中尊寺だというふうにしてらっしゃるかもしれませんが、実は違うということで、思想そのものが世界遺産に登録されているということです、そのご紹介も含めてお願いいたします。

岩手県平泉町長 青木 幸保



それでは、今回参加された方々の中では一番北から来ました、岩手県の平泉町であります。国宝第1号の中尊寺金色堂のあるまちであります。岩手がどこにあるのかなど。特に西のほうに行くと、青森なのか岩手なのか分からない方々が結構あるんですけども、「平泉は分かっていますけれども、岩手にあったとは知りませんでした。」という方が結構あるんであります。

実は今、中尊寺金色堂、そして毛越寺のみならず、今、5つの資産が世界遺産に登録になっております。

そのなかで、最初は10の資産でいろいろとすすめてきたわけですが、実際この5つだということで、今5つの資産でなっております。しかし、あれから13年になります、追加登録を目指すということで、残りの5つの資産を今まで県、そして隣は奥州市さん、そして隣は一関市さん、そして平泉町で5つの資産を調査研究を進めてきたところであります。

そんななかで、今追加登録を目指しているという「柳之御所遺跡」というのがあります。それを今いろいろな調査の中から、最もこれが、現段階で専門家会議でも、この資産1つは追加登録にまさしく近いということで、地域でも推し、一関市さんとも協議がすすみまして、今回チャレンジをするということに、申請をするという運

びになったところであります。

いずれ、これからだいぶ、司会をしていただきます井戸さんは、私には一番近いわけですから、動きとか表情がですね、早くやめてくれるというような顔をしておりますが、どうぞみなさん、関東から関西のほうに来ますとですね、なかなか東京から越えて東北に向かわれる方というのは、なかなか厳しいところがあります。どうぞ奥州、まさしく平泉はみなさんをお待ちいたしておりますので、どうぞ私の話を聞くよりも、むしろ論より証拠でおいでいただきたいと思えます。1月23日から4月14日まで、東京国立博物館で金色堂の900年大祭の特別企画展が開催されますので、どうぞ本物は岩手に、企画展は東京国立博物館でありますので、どうぞみなさん、奮ってご参加いただきますようにご案内申しあげまして、私からの発言とさせていただきます。

一般社団法人世界文化遺産地域連携会議 お世話役 井戸 智樹

平泉は藤原三代の平和な理想郷をつくろうということでしたんでね、中尊寺だけ見て帰られては困るとことなのなかで、追加登録を目指してらっしゃるということですよ。

追加登録に関しては、「軽微なる」ということが付くのかかもしれませんが、高野町さんなんかの道なんかもそうですが、ちょっと過去の実績もありますので、ぜひ頑張ってくださいと思います。

今日は、明日香村から森川村長さんがお越しであります。森川さんところは世界遺産登録をまずクリアしなきゃいけないということでございますので、一言ご発言いただいて、もし何かみなさんアドバイスがありましたら、お願いしたいと思います。

奈良県明日香村長 森川 裕一



私どもだけ世界遺産登録してないところで参加していますから、ちょっと立場が非常に弱いので、私からは1つ、2つ愚痴を言って、それをみなさんに助けていただきました

いという思いを持っております。

一つはですね、今世界遺産登録2026年を目指そうとしてます。私が村長なったときは、「2023年に取ります。」と言ったんですけど、全然取れなくてどんどん延びてます。

そのなかで、今一生懸命、どなたかおっしゃいましたけど、世界遺産登録をするときは必死です。文化庁さんとかですね、国のさまざまな機関の方にお話をしますが、取った後どんな問題が起こるかということがありますから、そのためにもぜひですね、取った後もっとこんなことしておけばよかったなあということがあれば、どなたでも結構ですから教えていただければありがたいなと思ってます。

私ども、今感じてるのは、文化庁は話聞いてくれるんやけど、観光庁に話を持っていっても、「世界遺産登録、取ってからな。」という雰囲気、観光庁の方がたくさんおられますか。大丈夫ですか。なんかそんな感じがあってですね、なかなか言うことを聞いてくれないなというのが一つ。

それと、あと奈良市さんが世界遺産教育をやっておられたんですけど、こういうものを本当にどうやってやっていくのか、いいなんか知恵があったら、その教育、若い子からその世界遺産が好きになるという教育って、どうすれば一番効果的なのかなと、こういうふうなことを教えていただければありがたいなと思っております。

以上です。

一般社団法人世界文化遺産地域連携会議 お世話役 井戸 智樹

ありがとうございます。

では、これはまずは一番、平泉さん、ちょっと飛行機か新幹線の都合で帰られちゃいましたので、一番最近登録されたのは須藤さんのところ富士山なので、もしよろしかったら一言アドバイスをいただきたいなと。

あと教育のことについては、奈良市さん、北谷さんに一言コメントいただけたらと思います。

静岡県富士宮市長 須藤 秀忠

富士宮市では、世界遺産登録時に「富士山世界文化遺産富士宮市行動計画」というのを策定いたしました。

しかし、なかなかそれを簡単にやるわけにいかない。なかなか難しいことですが、財源が必要な場合ですね、ふるさと納税、今富士宮市は43億円という、大変多くの金額をもらってます。そういうふるさとに対する

寄附金を財源とした、「世界遺産富士山基金」というのこしらえておまして、そして目標に向けて今すすんでおります。

なお、子どもたちにも「富士山学習」というのをみんなでもって勉強しようと、小さいうちから子どもの力、そのまちのですね、うちは富士山が今一番象徴的な目標ですけども、それぞれの地域でもって、そうした目標に向けて子どもたちと一緒にやっていくということも、大事じゃないかなと思ってます。

いずれにいたしましても、私ども、10周年たちますけど、まだまだやり足りないことがあります。一朝一夕にはいかないと思いますもんですから、ぜひ長い目で見て辛抱強くですね、こつこつこつこつやっていくことが何よりではないかなと、私は実感としてそう思ってます。

以上です。

一般社団法人世界文化遺産地域連携会議 お世話役 井戸 智樹

ありがとうございます。

北谷さん、何か教育的なこと一言。

奈良県奈良市教育委員会 教育長 北谷 雅人

失礼いたします。今日の分科会の斑鳩町のご発表もあったように、私どもも教育の中でどうしてるのかということですけども、世界遺産も、もともと、もともと帰れば、これは地域のお寺であったり、地域の大きな自然であったりとか、資産群であったというふうに思います。

ですので、私ども教育委員会としても、世界遺産学習全国サミットというものを、世界遺産の持っている市町村の方々に、今、全国、奈良市が中心になって2010年からやらせていただいて、今年度で14年目となる、教育の中身でやってるところもあるんですけども、そういう意味では、世界遺産のある地域だけの学校が参加いただくということについては、もう限られたことですので、これは地域の遺産であるとか、地域の伝統文化であるとか、それこそ地域にあるお地蔵様から、小さな社からも含めて地域で大切にしているというところで、そういうものを日頃の学習に取り入れていただくということでもあります。

こうした長い歴史の中で人々が守り育ててきた、やっぱりこういう思いに触れながら、自分ごととしてしっかり地域を見ていく。そして立派なものを後世につないでいくということではありますが、そういうことで地域とともに、

地域の人々から学ぶ。もちろん世界資産群も含めて、地域のそんな伝統文化も含めて知ること、そして人に伝えることで、自分のしっかりアイデンティティを深める。やっぱり地域のことを語ることが、日本のことを語る、そして世界の中に出ていくということでもありますので、そういうものを大切にしていって、地域のことを誇りに思う、イコール地域のあるこういう世界遺産もそうですけれども、そういう深いものを育てていくという教育をしっかりとやらせていただいているというところでございます。

以上です。

一般社団法人世界文化遺産地域連携会議 お世話役 井戸 智樹

ありがとうございます。ちょっと時間が過ぎてしまいました。

最後の最後、この地域にこれだけ聞いておきたいということが、もしおありになりましたら、1名限定でご指名させていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

特にございませんか。清元さん何かないですか。

兵庫県姫路市長 清元 秀泰

いや本当に、実はそういう意味で高野山の高野町さんに聞きたいんですけど、宿坊の話なんですけど。宿坊では、ものすごく料金の安いところで座禅体験とかが人気あるのかと思ったんですけど、高級なものほうからホテルが売れていくということで、ちょっとびっくりしたんですけど。

逆に、我々世界遺産、ちょっと今日、お隣に登録を目指されてる方もいらっしゃるからあれなんですけど、世界遺産になると、めちゃくちゃ文化庁の制限が強く、なんかお城に泊めたら儲かるんじゃないとか、そういう安直なことが全然できなくなるんですけども。宿坊という精神的理念で言うと、あんまりなんかゴージャスなイメージがなかったもんですから、その辺らはユネスコとかそういうところから、あんまりその僕ら、姫路城の景観を壊してはいけないとか、コンセプトを崩しちゃいけないというようなことを縛りに思っていたところもありますので、むしろ観光庁側のほうは、「もっとツーリズムとして使え。」ということなんですけど、文化庁は例えば、「中村座の芝居小屋を建てるのに杭40センチ以上打つな。」とか、「建物は絶対に建てられない。」とかというようなすごい制限があって、イベントがやりにくいということもあります。

その辺は、どういうふうクリアされてるのかなあと

いうのを、ちょっとお聞きしたいなど。

和歌山県高野町長 平野 嘉也

ありがとうございます。

宿坊が全て価格が上がってるんじゃないで、今ちょうど三極化してるというような感じです。ラグジュアリーな感じがするというようなお寺があったり、あと海外の方と日本の方が混在するところと、それとも海外の方はもう取らないと、うちは檀信徒、信者さんしか泊めないというような、三極化してるんじゃないのかなというふうにも思います。

ラグジュアリーな感じ、スイートルームのような感じというふうにも聞こえたりもするんですが、もともとですね、高野山の宿坊というのは、大広間に多くの方々が宿泊したり、個室というのがもともとないというような前提の宿坊が多かったです。いろいろな制限は当然あるというふうにも思いますし、外観上は変わることはできません。

そのなかで、やはり旅館業法で営まれている、その形態の中の宿坊というようなところは、中身を個室のバス・トイレ付きとか、普段みなさん泊まられるところの当たり前のようなお部屋、それを作ることによって個室を希望される方が来ると。海外の方は特にそういうような傾向があるというふうにも思います。

でも、本質というところで申しますと、おつとめから始まったり、写経があったり、「阿字観」という瞑想体験があったり、そういったものは、全てのお寺共通して同じようなことをされてるというようなところ。建物の中がきれいにはなりますけど、本質的には何ら変わっていないというようなところでしょうか。

また、その文化財に関係するような場所でのイベントとか、そういうのは姫路市さんと同じように、いろいろな規制があってやりにくいというようなところでありまして、観光関係の行政機関ではOKが出ますけど、文化庁的には駄目だというようなところもございます。

回答にはなっているか、なっていないかわかりませんが、とにかく高野山での「コト消費」というんですか、「コト消費」が昔から今になっても、そして先々将来にわたっても変わらないというような基本路線は崩さず、中の過ごし方というのを変えていくというようなことで、いろいろ対応しているというふうにも思っております。

ありがとうございます。ここでビールかお酒が運ばれ

一般社団法人世界文化遺産地域連携会議 お世話役 井戸 智樹

てきて、あと2時間ぐらい話すと本当に面白い話になっていくんですけども、残念ながらもうお時間が来ております。

みなさんどうも本当ありがとうございました。

世界遺産、今日は市町村長さんばかりですけども、そちらのスタッフの席には、南は沖縄、北側はどこかな、九州勢として宗像、あと鹿児島、北側は縄文のみなさんもお越しになってます。

世界遺産がこうやって連携しますと、日本の国土をほぼほぼカバーできる状態になってきました。また、日本の歴史も、実は縄文時代から原爆ドームとか、国立西洋美術館までカバーできるようになってきておりますので、日本を紹介する一つの格好の素材が、今連携が始まっているということでございますので、今後も力強く、末永く頑張っていきたいと思っております。

市町村長さんのみなさん本日はどうもありがとうございました。また時間が押してしまいまして、大変ご迷惑おかけしました。

ではこれで、首長会議のほうは終わらせていただきます。

ありがとうございます。

司会

井戸様ありがとうございました。

どうぞそのままお席にお着きくださいませ。続いてサミット宣言でございます。

井戸様、ありがとうございました。

それでは引き続きまして、サミット宣言に移らせていただきます。

本サミットの二日間の総括とサミット宣言について、ここからは中西町長にお任せいたしますので、よろしくお願いいたします。